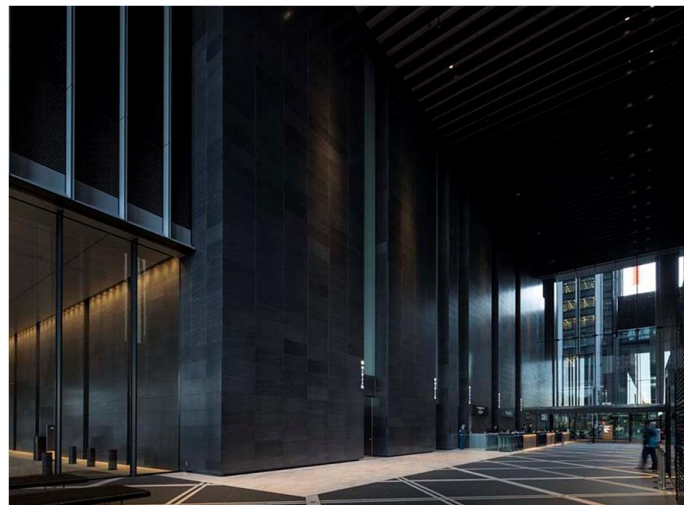


外観



地上31階地下4階の大手町地区最大級の大型オフィス。4つのキューブに見えるようなファサードは、縦横に段差をつけ圧迫感をなくしたリズミカルなデザイン。写真中央が「グランキューブ」。

エントランスガリレア



圧倒的な印象を与えるエントランスガリレアは、天井高20mと大らかな開放感を体感できる。

オフィスフロア 女性トイレ パウダーコーナー



鏡裏の間接照明が明るくお化粧しやすさに配慮したパウダーコーナー。

オフィスフロア 女性トイレ 全体



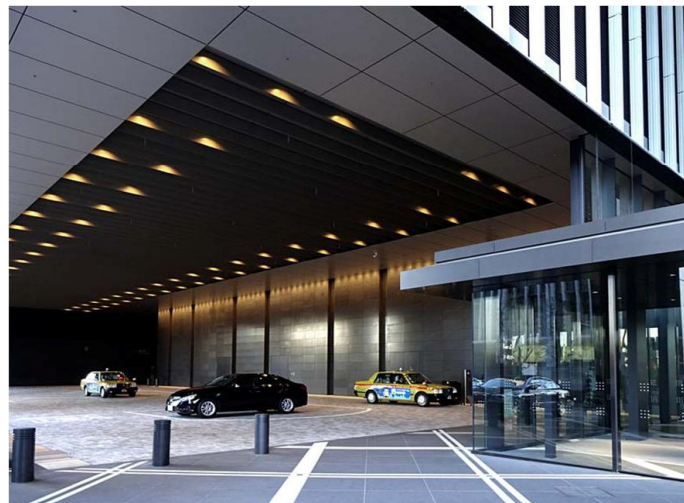
トイレ内通路の突き当りの光壁が奥のブースまで誘導する。対面設置された洗面コーナーの鏡は映りこみを軽減するため傾斜をつけている。

メインエントランス・エントランスガリレア



メインエントランス前の「光の泉」から流れる光のラインは、エントランスガリレアの床から外構へと連続し、壁面を昇る「光の回廊」へと広がるアート作品。人々に賑わいと安らぎをもたらしている。

車寄せ



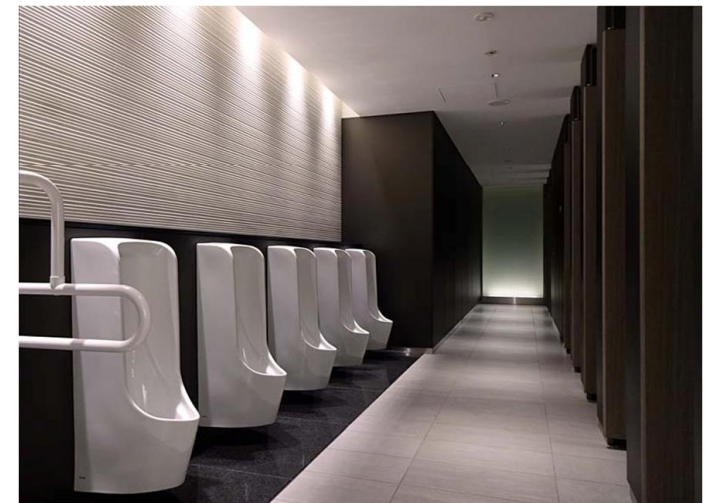
「国際競争力強化」の取り組みとして設置された車寄せは、大型バスでもゆとりのある規模。

オフィスフロア 男性トイレ 洗面コーナー



凹凸のあるタイルや間接照明を用いた陰影のある洗面コーナーは女性トイレ同様のデザイン。

オフィスフロア 男性トイレ 全体



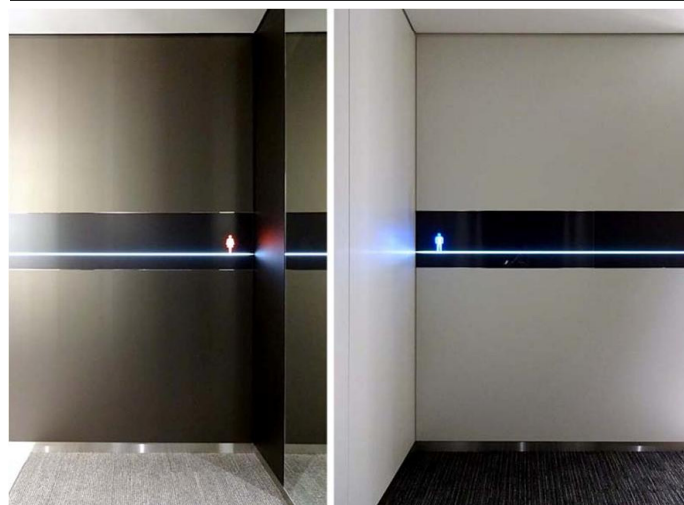
空間の圧迫感がなく広がりを感じさせる奥行き光壁が奥のブースまで誘導する。シンプルデザインと大幅節水を実現した自動洗浄小便器を設置。1ヶ所には手すりを設置している。

オフィスフロア エレベーターホール



センターコア内にあるエレベーターホール。光壁が奥行き感を与え、空間の圧迫感がなく広がりを感じさせる

オフィスフロア トイレ入口



奥行きが長い通路でも視認性が向上する内照式のシャープなサイン。

オフィスフロア 男性トイレ 大便器ブース



床面の清掃性に優れた壁掛けタイプを採用。男女とも各1ヶ所には手すりを設置している。

オフィスフロア 多機能トイレ



車いす使用者やオストメイトなど、さまざまなオフィスワーカーを想定し、オストメイト対応汚物流しを備えた多機能トイレをすべてのフロアに設置している。

商業フロア トイレ入口



手前から多機能トイレ、男性トイレ、女性トイレの配置。お食事やお買い物などのさまざまなお客様に配慮し、男女トイレにもベビーチェアを設置して機能の分散を図っている。

商業フロア 女性トイレ 全体



洗面カウンターの前板は足元に空間を設ける他、ベッセル式洗面器を採用しカウンターの高さも低く抑え、浮遊感を演出。顔映りのよさに配慮し、間接照明を加えた内照式鏡を設けている。

商業フロア 女性トイレ 大便器ブース



男女とも各1ヶ所づつ、手すり付きと、ベビーチェア付きのブースを設けている。

商業フロア 男性トイレ 小便器コーナー



節水のための最先端技術を備えた、シンプルなデザインのRESTROOM ITEM 01を採用。

商業フロア 男性トイレ 洗面コーナー



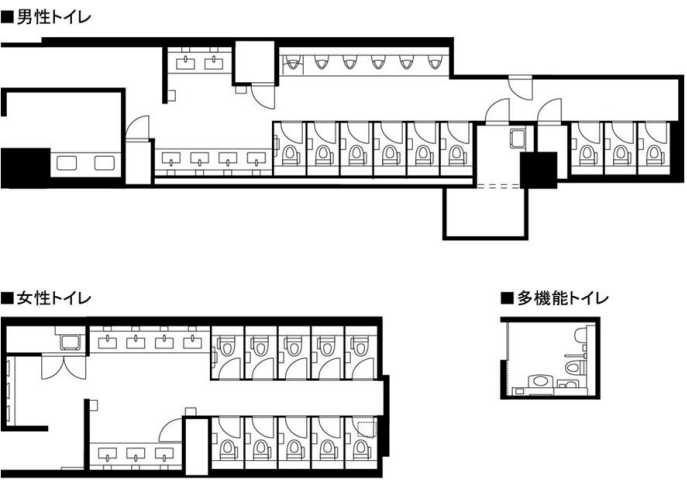
地下フロアがメインとなる商業ゾーンは、地層をイメージした温かみのあるデザインで、店舗フロアと連続性を持たせている。

商業フロア 多機能トイレ

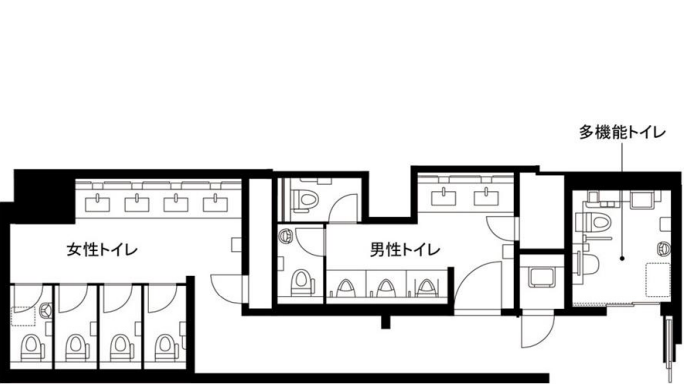


使いやすさと同時に空間としての統一感のあるデザインを実現した、RESTROOM ITEM 01の多機能トイレ/パックを採用。小さなお子様連れに配慮して、ベビーシートとベビーチェアを完備している。

オフィスフロア トイレ図面



商業フロア トイレ図面



歩行者空間



都市整備基盤の一環として整備された日本橋川沿いの歩行者用空間。

駐輪場



自転車利用の増加傾向に対応するため、機械式駐輪場を整備。テナントワーカーだけではなく一般にも開放している。

建築概要

名 称	大手町フィナンシャルシティ グランキューブ
所 在 地	東京都千代田区大手町1-9-2
施 主	三菱地所株式会社
設 計	株式会社三菱地所設計 株式会社NTTファシリティーズ 設計監理共同企業体
施 工	戸田建設株式会社 (建築) 斎久工業株式会社 (給排水衛生設備)
竣 工 年 月	2016年4月

水まわりの特長

<建物の特徴>
丸の内再構築事業として効率的にビルの建て替えを進める大手町連鎖型都市再生プロジェクトの第3次事業として完成した地上31階地下4階の、大手町地区最大級の大型オフィス。「国際競争力強化」「BCP対応」「エリア全体の防災機能強化」「都市基盤整備」への取り組みに対し、3階には成長企業の支援施設「グローバルビジネスハブ東京」を整備し、別棟のホテル棟では国際水準の宿泊施設を誘致。万一の災害等に備え、自然の力で換気できるダブルスキンスシステム、中圧ガスとA重油に対応する非常用発電機を設置、高度ろ過設備による井戸水からの飲料水の確保や、下水の浄化設備の設置により、非常時にもトイレを使用可能とし事業継続性にも配慮している。

<トイレの特長>
効率よく貸付スペースを確保するため、エレベーターシャフトの間にトイレを設置できる寸法にて計画。便器の器具数は、昨今の傾向調査から、空調調和・衛生工学会の算定式レベル1よりも多く設置している。さらに、17フロアあたりの貸付面積約4,200㎡の大型オフィスにより個室数も必然的に多いため、奥の個室へと誘導する狙いとして、突き当たりの壁を光壁とした。エレベーターホールにも同様の光壁で、デザインに連動性を持たせている。